

県民アンケートで出された主な自由意見

施策・事業

景気対策、雇用や福祉といった直接県民生活に関連する分野について、施策の充実を求める声が聞かれた。

- 「景気が良くなるように景気対策、雇用の確保」
- 「みんな税金を支払っているのだから有意義に活用されないと困る。福祉など我々の生活がより生活しやすいようにしてもらいたい。」
- 「現状以上の強い中小企業支援対策を行う必要があると思われます。また、対策案等の公開により、県民により幅広く業務内容を伝達しておくべきと思う。」
- 「私どもの希望している県政は、働きたくても仕事のない現状に対してや老後のこと、町村合併後のことなど不安が募るばかりです。もちろん我が子の将来的なことも心配しています。こうした様々な不安や県民のニーズを考慮の上、県民にあまり負担のかからないような行政、財政で改革して下さい。」

また、施策実施のスピードの遅さについての苦言も聞かれた。

- 「外回りの環状線の計画から数10年と余りにも施策が遅すぎ、未だ完成していません。市中心部にあっては50~80年経て完成するようなものは中止すべきです。そんな道路は意味がない。」

さらに、市町村との役割分担を見直すことにより県の行政改革あるいは住民参加型の財政運用をすべきとの意見もあった。

- 「県は市町村合併を推進するようもっと指導力を発揮すべきである。市町村合併により市町村の行政能力は向上させ、県と市町村の役割分担をより明確化し、住民に対する直接的な行政サービスは出来る限り市町村に任せ、県政の効率化を図るべきだと考える。」
- 「住民サービスの多様化によって経費の増加が見込まれます。IT運用の事務効率化、ボランティアの利用、住民参加型の財政運用を行うことしかないと思われる。」
- 「県民が参加できる仕組みは大いに推進すべきだ。職員では補助制度や法律に縛られるために斬新なアイデアが出にくいいため、広く募ってみれば。」

なお、「県民サービス」そのものについて、個別の要望も含め下記のような意見が寄せられた。

「県民サービスと言っても、県が何をしているかがわからない。」

「県民サービスに関することは、9時から5時の枠は取り払うべき。土日のサービスを求めている県民もいます。」

「飼い犬の件にしても、保健所は狂犬病の予防注射を打つだけでなく、その時に併せて飼い主の教育、指導をして、糞の始末までルールの中に織り込んで、道路の美化にも保健所としてかかわる程のサービス（県民に対して）精神を持って欲しい。」

「パスポートの窓口を各市町村で行ってください。」

「少子、高齢化が急速に進む時代の「県民サービス」とは何かを考えて欲しい。ただ効率化ではないと思います。」

組織

組織のあり方については、自由意見では思い切った人員削減による大胆なスリム化を求める声が多かった。また、県庁本体だけでなく、公社、外郭団体等の再編を求める意見も多く寄せられた。

「赤字が出ないように職員数を決める。」

「県職人員の削減を第一に考えた行革を是非」

「本庁だけでなく、外郭団体も含め思い切ったスリム化を望みます。非効率なものは廃止する。職員の能力給の導入など、成果主義を重視する。公務員の原点にかえて意識改革を強く望みます。」

「本庁自体の人員削減があっても、外郭団体に職員が移行しているだけであり、総合的な人員削減計画を進めるべきと思う。また、天下りをなくすべきである。」

「外郭団体の無駄の多さ、誰が見ても建前だけで活動実態のない団体がある。」

なお、人員削減によって県民サービスが低下することについては、ある程度はやむを得ないが、県民サービスの低下は最小限とするよう注文が出された。

「県民サービスが低下することはあり得るかも知れませんが、当たり前だというような態度で行わないで欲しい。」

「県民サービスがある程度にしろ低下するぐらいなら、行財政改革は本末転倒なので、低下具合をよく勘案し、最小限にとどめ、押し進めて下さい。」

「改革を実施しても良いが、県民のサービスを低下、生活の不安等を与える改革ではいけない。」

しかしながら、中には、人員削減による県民サービスの低下はもってのほかとする厳しい意見も聞かれた。

「行財政改革をすれば、なぜ県民サービスが低下するのか、県民の税金での運営ならば県民の為が最優先である。」

「新財政改革を進めれば、サービスが低下するとか後ろ向きの改革なら即刻やめるべきである。」

さらに、あらゆる見直しを行うべきという観点から、北陸三県の合併も視野に入れた見直しを求める声もあった。

「民間企業ではリストラ等で現状を乗り切ろうとしている。県もありとあらゆるものを見直していただきたい。例えば、富山県、福井県と合併しても良い。」

「市町村合併論がありますが、行財政改革推進を進めたいなら、まず、北陸三県程度の統合を視野に入れた考えのもと進めるべき。」

業務プロセス

民間企業に比べて、ムダの多い予算執行、コスト意識のなさ、などの問題点が指摘された。特に、年度末に予算を使い切るシステムの見直し、民間委託の推進についての意見が寄せられた。

「予算で民間は残すことに重点をおいているが、県はまだ使い切ることになっているのであれば、発想の変換を図ってほしい。」

「民間の経営を見習うべき。県債とは赤字であり、県という会社は倒産しない概念を改めて欲しい。危機感を持って欲しい。」

「民間企業でできることは、できるだけ民間に委ねる。」

「何事もスピーディーに行うこと。民間に任せられるものは大胆に移行し、県職員の削減を図る。」

「民間が人件費、事務費などを極力おさえてこの不況を乗り切っているという現状を知れば、今までのようなお金の使い方 行政のあり方も早急に変えていただきたいと思う。」

また、IT化により業務プロセスを見直しすることにより、人員を削減すべきとの指摘もあった。

「まず、人件費の削減を考えるべき。コンピュータなどの導入を進めながら定員の削減がなされていない。各人の仕事の内容等考えるべき。」

マネジメント・風土

不況、リストラが続く民間の厳しさとは別世界のように見える県職員の仕事ぶりに多くの批判が多く寄せられた。特に職員の勤務姿勢や意識、さらには資質について、多くの疑問が投げかけられた。

- 「まずは幹部職員が「県」の存在意義を理解し、末端の職員にまで教育できるようにすること。そうすれば、官僚組織が陥りやすい悪い体質が排除され、自然と改革が起こると思う。他人からの押し付けの「改革」では成功はない。」
- 「世間では不況だ、リストラだ、減給だとみんな必死です。そんな中で公務員は自分は関係ないみたいな顔をしているのはおかしいし、新県庁も立派すぎます。もっと大切な血税の使い方を考え直して欲しい。」
- 「県職員の仕事に対する姿勢がまだまだなっていない！もっと民間の会社員のように働けば、人員削減もまだまだできると思います。」
- 「公務員はもっと働くべき。私たちの税金で暮らしているという意識が薄い。窓口での対応態度も悪い。基本的なことから改革して下さい。」
- 「出先機関の職員人数が多すぎる。公務員という職業にどっぷりとつかり、仕事をしている人を見かけます。」
- 「サービスが低下しても、職員が県民の立場に立って働けば理解を得ることが出来ると思う。しかし、現場の職員と接するとこれが本当に採用試験に合格した人かと疑うような人多すぎる。民間の人達に採用試験の審査員になってもらったらいいのではないかと思うくらい。」

特に行財政改革を進めていく上で、県民を顧客として再認識するなど、職員一人ひとりの意識改革が最も大切との意見が相次いだ。

- 「職員は県民に奉仕する職業についていることを認識すべき。意識改革が必要。」
- 「県民サービスの低下は職員一人ひとりの人間改革で防げると思う。民間の企業努力を見習って欲しい。」
- 「公務員と民間会社、県民との意識レベルを統一せねば、相互理解も改革の根本も見えないのでは」
- 「サービスについては、県職員の意識改革でいくらかでも良くすることができる。一番の「悪」は県職員の意識そのもの考える。」
- 「職員への意識改革に期待する。石川県民は「お客様である」」

また、年功序列人事を廃止し、実力主義にすべきとの指摘も多くあり、これが出来なければ、行革は無理との指摘もあった。

能力給にしる。」

「能力（実力）主義でやっていく必要があると思います。エスカレータ式の昇格はやめて下さい。」

「横並び年功型の人事から脱却し、意識改革を進め、能力成果主義を導入すべき。」

「県職員の方は一見真面目な方ばかりですが、せっかく優秀な職員を持ちながら、仕事の横並びを意識する上司がいる間は行革は無理だと思います。」

さらに、責任の明確化を求める厳しい声もあった。

「道路や施設の利用見込みを大幅に見誤った企画を立てた人間には何らかのペナルティを課すべきです。これにより無駄な公共事業はなくなります。」

情報公開、県民との協働

県の持つ情報を積極的に県民と共有し、県民からの提案も積極的に取り入れる双方向的な行政の展開を求める意見が多く寄せられた。行財政改革については、改革による目標や効果を明確に公開するよう求められている。

「きちんと県民が納得するように説明し、理解が得られるよう、行政を行う人が全員内容を把握して下さい。また、役人気質はなくして下さい。いかにもわかっている態度はしないようにして下さい。どこにどの税金が使われているのか、それが本当なのか、情報の公開という言葉に甘えていないかもよく考えて下さい。」

「県民全体が政治に興味をもち、より多くの声が県政に届くように、県政が今からやろうとしていること、それで期待出来ること、犠牲になることが明確に県民にPRできると良いと思う。いつか双方向で政治が進められる時が来ればいいと思う。」

「民間経営手法やノウハウを吸収活用し、民間企業で言うところのクライアントである「県民」に対してのサービスや地域産業の活性化教育、福祉の更なる向上を実現できる、確実な行財政改革を計画、実行してほしいし、その目標、計画、活動状況、結果、成果、新たな目標などを県民にしっかり報告してほしい。」

常に改革内容を広く県民に公開し、リスク及び利点を明確にして頂きたい。」

また、県民の目線に立った分かりやすい説明の工夫や、ITを活用した積極的な情報公開を求める意見も寄せられた。

「県のやることは、たとえ詳しく文章で載っていても、難しく理解できないので、もっとわかりやすく報道等で説明が欲しい。」

「例えばインターネットを利用した石川県ホームページへのアクセスを利用した県民ニーズの収集とそのことに対する県からのフィードバックが常時インターネット上で確認できる

県政情報の積極的な公開を期待します。」

「たくさんのスペシャリストを抱えている県庁だからこそきめの細かい独自のサービスを展開できるはず。そして行政経費とはそのために使われるものであり、それを改革しようというなら、その具体的な内容を提示してから県民の意見を聞いてみては。」

「行財政改革を行うのであれば、可能な限りわかりやすく県民に内容と将来目標、それに伴う成果を開示する必要がある。今の県政そのものが全く透明性がないのも課題だ。」

さらに、これまでのように一方的に行政に頼るだけでなく、県民の側ももっと能動的に行政に関与していくべきとの意見もあった。

「逆に納税者の側も「公」への批判をするばかりでなく、何が必要なのかを話し合う態度が必要だと思う。無関心が一番いけない。双方協力していく姿勢が必要である。」

「県財政を節約するためには、県政に頼るばかりでなく、市町村民が子どもから高齢者までいかにやる気になるかということだと思います。私は高齢者ですから、少しでも医療費を減らすために、心身に健康な日々を過ごすことです。地域ごとに仕事や趣味の長年の経験者が子どもの情操教育や大人の生涯学習に、リーダーとして大活躍してもらいたいと思います。山歩きの大好きな私どもも、能登の里山の荒廃はひどく、地域ごとに里山の整備が必要だと思います。良い指導者の元でボランティアを募って少しずつ進めていけばと思います。」

「県民、県(国)、市町村職員が意識改革をし、今後、何が必要なのかももっと考えるべきだと思う。また、今までの行政はいろんな面において、主になって事業等をしてきたが、県民がもっと主体となり、積極的に行える環境と施策、そしてそのバックアップ(お金だけでなく)をする組織作りが大切だと思う。」

その他

新行財政改革に対する寄せる県民の期待感の表明もあった。

「県職員の方々も知事を先頭に心を新たにして、自分の仕事に誇りと責任を持ち、人と物とが、一体となった日本一の地方行政県を目指して、日々の業務に邁進してください。「開かれた県政」を期待します。」

「各県横並びではなく、石川県独自の思い切った行政改革を行い、他県の目標となる成果を期待する。」

「やはり県民一人ひとりが、ああここが変わったんだなあ、良くなったんだなあと実感できる行財政改革であって欲しいと思います。」